



詳述歴史総合 新訂版

東洋大学附属姫路中学校・高等学校
黒河 潤二

現行の学習指導要領が実施されてから、丸3年が経過した。鳴り物入りで導入された歴史総合に求められる役割は実に多様である。まず、18世紀以降の歴史を通して、歴史的思考力や判断力を養成していくことが、この科目の目的であり、共通テストの「歴史総合」では、こうした能力が習得できているのかが試される。次に標準単位が3単位に減じられた探究科目への接続を効率よく図るため、歴史総合で18世紀以降の通史を一通り終えておく必要がある。特に探究科目の単位数が5単位以下しか設定できない高校では、積み残しの懸念のある「グローバル化とわたしたち」については、歴史総合で時間をかけて学習しておくべきであろう。また多くの教科書で学習指導要領に記載のない前近代史が扱われていることから、近代につながる歴史や近代史の学習に必要な概念用語（三大宗教、主権国家体制、絶対王政など）についても、できるだけ学習しておくことが求められている。さらに歴史総合の学習の根幹ともいえる、歴史資料読解により、他教科の学習にもつながる読解力や分析力、そして個人の意見をグループで共有したり、議論したりすることで、共同して課題を解決する姿勢を涵養する必要がある。そして何より、これらすべての要素を多くの高校では、2単位で修得し終えなければならない。

これらの要請に応えるため、われわれは編修部とともに『詳述歴史総合』の改訂に乗り出し、新訂版を世に出すことができた。『詳述歴史総合』は、従前から日本史・世界史の通史学習を中心に据えながら、思考力・判断力をバランスよく養える教科書であると高い評価を受けてきたが、2単位で終えるには本節の内容が多すぎるのではとの声も聞かれた。また歴史総合の授業を展開するた

めに不可欠な問いの中に、多様な解答を想定できるオープンエンドの問いが多いため、授業がなかなか進まないという意見も数多く寄せられた。

そこで新訂版では、まずは「近代化とわたしたち」を中心に本節の構成と用語を徹底的に見直し、2節分の内容を精選することができた。これにより、2単位で終えにくいという声に少しでも寄与したい。一方、「グローバル化とわたしたち」のうち、2008年の世界金融危機以降の記述の充実を図った。この部分は、内容を精選しながらも、必要な部分の解説は増やし、現代的な諸課題を考察する手助けとなるようにした。

改訂にあたり、最も時間をかけたのが問いの見直しである。新訂版の問いは各ページに設けたCheckを資料読解、Pointを本文読解問題として利便性の向上を図るとともに、各節の最後に設けたTryには、それぞれの節のまとめとして活用でき、大学入試にもつながる問いを配置するようにした。また歴史の扉の中の「歴史の特質と資料」では、従前の絵画資料に文字資料と統計資料の読み解きを加え、より深い歴史的思考力や資料読解力を習得できるように工夫した。そして冒頭には巻頭特集として本節に入る以前の世界と日本の歴史を年表と写真を使用しながらまとめることで、18世紀以降の学習を進める中で出てくる疑問に答えるとともに、探究科目への接続を図った。さらに、教科書本冊以外でも工夫を施した。教科書QRコンテンツは、文献史料のリンクを貼ることで、資料読解力や歴史的思考力を養成する授業に活用できるようにした。またノート教材は、従前のように活用シーンにあわせて2冊を準備し、より効果的・効率的な指導ができるようにした。

このように『詳述歴史総合 新訂版』は、これまで3年間で現場に生まれたさまざまな課題に向き合いながら、現場目線で著者・編修委員・編修部が一体となって作りあげた渾身の一作である。歴史総合のねらいをしっかりと身につけさせたい教員はもちろん、入試に向けた学力向上を図りたい教員に活用いただき、授業実践の中で生まれた新たな課題の解決をともにめざしていきたい。